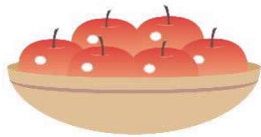


里親だより



vol. 52

令和2年(2020年)11月20日発行
里親だより編集委員会

1. 10月4日は「里親の日」～里親広報活動への取り組みについて

松本児童相談所 家庭養育推進係
井出 亨

突然ですが、日頃テレビで目にする自動車のCM。その目的は実は二つあると何かの記事で読んだことがあります。大変興味があったので今でも記憶に残っています。

一つ目の目的は、CMを見ている全ての人の購買意欲をくすぐり、最終的に購入契約をしてもらうため。これは誰もが理解できる目的です。

私が興味をもったのはもう一つの、購入したドライバーの「購入後の満足度をより上げるため」という目的でした。何度もディーラーに通い、やっと手に入れたマイカー。せっかくなら、この車にしてよかったと実感してもらいたい。その対象人数が少数だとしても、その車を購入してくれたドライバーやその家族に楽しく安全に車に乗ってもらいたい。そんな思いがCMに込められているそうです。

確かにニッ○ンのCMを見て、実際に購入した男性の多くは、「やっちゃんニッ○ン！」と誰も見ていないところで、木村拓哉さんになりきってサングラスをかけ指をならして出勤しているはずです。

さて、本論に入ります。当所では10月の里親月間にあわせ、中信地区里親会の里親の皆さん、里親支援専門相談員さん、各市町村の担当職員さんと協力、連携し、各地で広報活動を行っています。7月の塩尻市を皮切りに、松本市、安曇野市、松川村、上松町の5市町村で厚生労働省の里親推進ポスターや里親さんから提供していただいた写真展示、里親に関する図書紹介等を行い会場ごとで、里親希望者対象に全16回の説明会を開催しています。来場者の多くは、制度の説明以上に里親さんの実体験に関心を持たれ熱心に話を聞かれています。

里親制度の広報活動には派手さはなく、大変地道な活動です。いつ来てくれるのかわからない来場者を待ち続ける時もあります。それでも続けることが大切です。広報活動の目的の一つは、里親さんの登録人数を増やしていくことですが、それと同じくらい、むしろそれよりも大切な目的は、里親制度を多くの人に知ってもらうことです。

知ってもらうことで、お子さんやお孫さんのクラスに里親さんの家で生活を始めた不安でいっぱいの子どもが転校してきた時に、「大丈夫。大丈夫。みんなわかっているよ。心配しなくていいよ。」と温かい目で受け入れてもらえる。そうした理解者、協力者を一人でも多く増やしていくことが本当の目的なのかもしれません。

先日、松本市の中央図書館で行ったポスター展示の会場で、一人のご年配の女性が展示されている写真を見て「こんなに小さい子もいるんですね。近くに乳児院があっいつも元気な声が聞こえてきます。里親制度のことも知っていましたよ。がんばってくださいね。」と声をかけていただきました。なかなかポスターの前に立ち止まってくれる人も少なく、加えてコロナ感染予防で図書館の入口は常時開放のせいもあり、

冷たい風が時折吹きこんでくる会場でしたが、「やっていてよかった。これでいいんだな。」と実感させてもらった一瞬でした。説明会は空振りでも、ポスターを目にした20人の方に里親制度を知ってもらえれば、その20人がまた誰かに繋いでくれる。それだけでも広報活動の目的は達成だと信じて、関係者と一丸となって年末の説明会まで取り組んでいきたいと思えます。



2. 研修会の報告

「里親更新研修を受講して」

中信地区養育里親 百瀬 千春・いずみ

令和2年10月3日、塩尻市で開催された里親の更新研修に参加させて頂きました。

午前中は児童福祉制度論「児童福祉法改正を踏まえた社会的養育のあり方」と子どもの発達心理学の講義、午後は「子どもを育む対話スキル 機中八策」がテーマの講義・演習を受講させて頂きました。

児童福祉制度論での平成28年児童福祉法等の改正の中で、支援関係機関の中に「里親」が位置付けられたことは、「里親は里子を守るチームの一員として、各関係機関とは縦ではなく横に繋がるイメージで互いに協力し合える関係でいたい」と伝え続けてきた私たちにとって大変喜ばしい事でした。

発達心理学の講義では今までの自分たちの経験を思い返しながら聴講していました。

小2の女の子の事例を交えながらの講義はとても分かりやすく、子どもの心を学び続けることの大切さを気づかせてくれる講義内容でした。

午後の講義は演習も兼ねての講義だったので、満腹感で働きが鈍くなっている脳には程よい刺激のある時間でした。

子育てしていく上では子どもに注意をしたり叱ったりという場面は必ずあります。問題行動が強く表出されやすい里子との関係は「困ったな..」という状況が多く、イライラしたり疲れしたりする事が増えるのも事実です。

この「機中八策」はそのような子ども達に対して怒鳴らないためのコミュニケーションの具体策であり、子どもたちと適切な関係を築くためにはどんな事が必要かを多く学ぶことができました。

また、演習することによってその状況をリアルに体験することができ、とても勉強になる時間でした。

私たちも日常生活の中で1回でも多くほっこり温かいオレンジカードを切れるように練習を続け、里子の自信・自己肯定感を醸成させることが出来ればと思います。

最後に、講師の先生方そして関係者の皆様、当日は本当にありがとうございました。

3. 諏訪・上伊那地区里親会の活動紹介



諏訪・上伊那地区里親会 会長 矢崎 昌彦

令和元年度より諏訪・上伊那地区里親会の会長を前任の渡辺様から引き継ぎ、2年目となりました。今までは里親会のことにはほとんど関わってこなかったのですが、里親会メンバーや諏訪児童相談所の皆様には色々助けていただき大変感謝しています。

里親会の活動では、まず里親サロンを毎月開催することを目標とし、里親同士が会って近況や思いを話せる場とすることが大切と思い、行ってきました。今年度は新型コロナウイルス感染予防のために、里親サロンを4月と5月は行うことが出来ませんでした。6月になってようやく地区の総会を開くことが出来、以降7月から月1回の開催で里親サロンを行っています。7月は諏訪児童相談所の青木児童心理士より「不登校」について教えていただき、8月はデイキャンプで多くの子どもたちと川で水遊びをし、美味しいご飯を食べることができました。10月は「虐待脳とトラウマ脳」について知ることができ、徐々ではありますが交流と研鑽の機会となってきています。今後の予定として、子育てに関する勉強会や子どもたちとのクリスマス会を行いたいと計画しています。

さて、昨年度から検討されています、里親等委託推進事業において、自治体や関係機関の担当者との意見交換を行い、諏訪・上伊那の事業モデルとして地区委員会の中に「養育里親」「養子縁組里親」「家庭的養護・権利擁護推進」の部会を設けて、それぞれの課題を集中して取り組んでおります。順次部会の集まりが始まり、活動を推進して行くところです。

また、諏訪児童相談所管内の自治体担当者の研修や、啓発活動として県福祉大学校で制度や体験の講義を行うことが出来ました。今後は産婦人科の看護師や看護学校の学生にも制度や体験などを伝えていければと計画しています。

今年度、茅野駅前に新設された「児童家庭支援センターつつじ」にて里親制度個別説明会が「フォスタリングマンデー」と題して、毎月開催されています。里親としての体験などをお話しする機会をいただいています。

新たな里親との出会いを期待しているところです。



4. 里親支援専門相談員の紹介



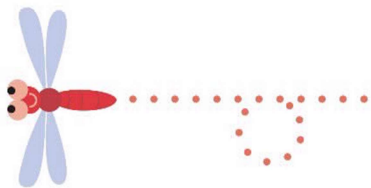
里親支援専門相談員になって

軽井沢学園地域里親家庭サポートセンタースミール 池上 奏歩

今年度より、軽井沢学園地域里親家庭サポートセンタースミールの里親支援専門相談員を務めることになりました池上奏歩です。これまでは、軽井沢学園で児童指導員を務めておりました。軽井沢学園の子どもたちとかかわる時間も減り、子どもたちから多くの元気をもたらしていたことを実感する毎日です。

今年は、新型コロナウイルスの流行のため、4月から5月の間に里親支援専門相談員としての業務が行えず歯がゆい期間がありました。しかし、里親支援専門相談員としての業務、里親制度について改めて勉強をする時間を持つことができました。徐々に制限が解除され、今では里親さんと里子さんと顔を合わせることができとても嬉しく思います。日々、勉強の毎日ではありますが皆様のお話を聞き、一緒に考えることで経験を深め成長していきたいと思っています。

まだまだ未熟ではありますが、里親の皆様のお力になれるよう精一杯努力いたしますので、よろしくお願いいたします。



里親支援専門相談員になって

慈恵園 浜田 陽平

今年度より、慈恵園で里親支援専門相談員を務めることになりました浜田陽平と申します。

簡単に自己紹介をさせていただきます。慈恵園の勤務は現在6年目で、最初の年は施設に附置されている児童家庭支援センター《下伊那こども家庭支援センターっこ》で相談支援員を担当し、その後は園内のケアワーカーとして働いています。もとも出身は長野県ですが、慈恵園に来る前は県外の児童養護施設で9年間働いておりました。ですので、児童養護施設職員としては通算15年目になります。振り返るともうそんなに働いているのかとしみじみ感じる面もありますが、まだまだ勉強すべきことが多くあると日々身にしみながら続けています。

里親支援専門相談員として、これからの社会的養護や家庭養育支援の在り方等についてよく学び理解した上で、様々な支援や普及活動等に携わり少しでも貢献できたらと考えております。よろしくお願いいたします。

5. おしらせ

絵本をツールに里親を知る ～未来につながる暮らしのために～

里親を知る絵本「さとおや里親って なぁに？」

作：かまちゃん 絵：さっちゃん



子どもの育ちを支える会 会長 鎌倉 美枝

この絵本ができるまで

「里親」といっても、その正しい知識をもっている人や子ども達の生活に関してわかる人は、あまり多くないようです。地域で一般の大人に対して「里親制度」や「里親家庭の生活」について説明するのも大変なのに、子どもに説明する時はなおさらです。また、当事者である親御さんなどの理解を得ることも難しい現状です。「里親ってなぁに?」「どんな人たちなの?」といった疑問に答えるツールとしてつくったのがこの絵本です。

内容

物語は、あたりまえだけど大切な生活、食べる、遊ぶ、眠る里親子の姿と、里子や親御さんが願う「お母さん、お父さんとの暮らし」につながる未来を描いています。

絵

この絵本は登場人物が抽象化されています。それは、読み手の想像の世界を狭めない工夫です。あたたかさ、優しさ、喜び、愛おしさを感じる絵は、水彩絵の具で表現しています。

コンセプト

この絵本は「いのち」「繋がり」「未来」をキーワードに、生をあるがままに肯定することをコンセプトとしています。

子ども達の未来の暮らしをつなぐ

絵本を手にしたら、あなたの言葉にのせて読み語り、やり取りをしながらゆっくりページを開いてください。繰り返し読んで、その時々言葉を残しておくのもよいでしょう。なぜならば、この絵本は世界でたった1冊しかないあなただけの絵本となるようにつくっているからです。そして、この絵本の語り手を増やし「里親」を知る人が増えていくと幸いです。

おわりに

この絵本は、中信地区里親会の皆様にご意見をいただきながら作らせていただいたことを付け加えさせていただきます。

*この絵本は、「長野県 元気づくり支援金」を活用しています。

*絵本に関するお問い合わせはこちらへ→

【お問い合わせ先】

松本赤十字乳児院（協力団体）
電話：0263-31-5206（平日9：00～17：00）
未来につながる暮らしのために
すべての子どもに「家庭」を・・・

6. その他

皆さんご存知かと思いますが、県内の各地域で、里親制度の啓発活動が行われております。



例えば飯田児童相談所管内では、里親制度を広く知っていただくために、市町村をまわり、「里親について知る会」を行っております。今年度は今までのところ、3か所で行いました。

まだまだ、足を運んで下さる方はあまり多くはないですが、こういった活動を通じて少しでも興味を持っていただいたり、里親について知っていただけるきっかけになればいいなと思い、取り組んでおります。



☆新型コロナウイルスにご注意ください！！

11月11日現在、長野県内394名の感染者となっております。手洗い、うがい、マスクの着用など感染しない対策をお願いします。

サロンや研修会で皆さんとお会いできる機会が少なくなっておりますが、またお会いできるその時まで元気にお過ごしください！！



☆プチ情報

～免疫力を支えるために～

- | | | |
|-------------|-------|-------------|
| 1 バランスの良い食事 | 2 手洗い | 3 適度な運動 |
| 4 保温：保湿 | 5 睡眠 | 6 前向きな気持ち！！ |

バランスの良い食事と適度な運動で、ウイルスに負けない元気な身体を作ろう！

☆「里親だより」は長野県公式ホームページでも御覧になれます。
(長野県→中央児童相談所→児童相談所広域支援センターのページ内)

☆発行：長野県里親だより編集委員会
〒380-0872 長野市南長野妻科 144 児童相談所広域支援センター内
TEL:026-238-8010 FAX:026-238-8025
メール：satoya-shien@pref.nagano.lg.jp

